

満開の桜の下、紋付きはかまと白無垢姿でしらずと歩く新郎新婦の列。訪れた来園者からは祝福の拍手が沸き、園内は祝賀ムードに包まれた。

今春、高松市の栗林公園で行われた初の結婚式。これまで認められていなかった掬月亭の結婚式での利用が試行的に認められ、2組の挙式が実現した。

県内で「庭園挙式」の需要が高まっている。栗林公園での挙式の試行は、こうした需要の高まりを受けた。同市の玉藻公園の披露宴では、従来から挙式利用を認め、本年度はすでに昨年度1年間の3倍の6組が式を挙げた。今月の国の重要文化財指定後もこれまで通

「和婚」ブームが後押し

栗林公園の活用に期待

り挙式を受け付けるとい

庭園挙式の人気の背景には、和装で挙式する「和婚」ブームがある。「晩婚化が進み、上質志向が広がっている。だからこそ本物の名勝での挙式が脚光を浴びる」とは、栗林公園の挙式を担当したブライダル企画会社のフェアリー・テイル（高松市）の藤田徳子社長。

琴平町の金刀比羅宮では、10年ほど前には年間に1、2件だった神前式が、ここ数年は年間40件以上に急増。栗林公園の前撮りの利用も、2007年度の約150件から11年度には約300件に倍増しており、庭園挙式に憧れるカップルが多いことを裏付ける。

こうした現状を踏ま



高松市の栗林公園で初めて行われた結婚式で、会場に向かう新郎新婦ら（資料）

うした不安は、4月の挙式の試行で「結婚式を公園の風景の一部として見せることで、観光客らに公園の魅力を伝えることができた」（古川所長）と言ったように、杞憂に終わった。

庭園挙式では先輩格の玉藻公園の担当者も「挙式に使ってもらったことで、さらなるイメージアップにつながる。ルールさえ守ってもらえば、断る理由はない」とする。

栗林公園での挙式は10月から本格的に始まる。

「歴史的な場所は現代流に活用することでさらに魅力が高まるはず」と藤田社長。文化財を守りつつ、名勝の幅広い活用へ取り組みの広がりが期待される。（報道部・柳井麻友美）